

第3回日本スポーツグランプリ 受賞者(功績)

1	やまざき ひでや 山崎 英也	(男性)	83歳	東京都	陸上競技	活動歴：70年	顕彰対象区分(1)
<p>小学生から陸上競技をはじめ、現在も世界記録の樹立を目指し、トレーニングに励んでいる。昭和55年の第1回全日本マスターズ陸上競技選手権大会から25年連続出場を果たし、大会での優勝は100m10回、200m8回と計18回を誇る。M80クラス(80～84歳)100m、M65クラス(65～69歳)200mの日本記録保持者でもあり、世界マスターズ陸上競技選手権では、100mで3回、200mで4回銀メダルを獲得している。</p>							
2	さとう くにさぶろう 佐藤 國三郎	(男性)	87歳	東京都	テニス	活動歴：70年	顕彰対象区分(1)
<p>高校(旧制中学)からテニスをはじめ、学生時代は全日本学生選手権大会での優勝などの活躍をみせる。ベテランテニス界では、平成2年全日本ローンコートベテランテニス選手権大会ダブルス70歳以上の部で準優勝、平成9年には全日本グランドベテランテニス選手権大会ダブルス75歳以上の部で優勝する。また、テニス親善大使として日中交流に貢献し、昭和61年から21年間親善試合に連続出場してきたことにより「北京国際元老網球会」より「終身栄誉賞」を受賞している。</p>							
3	おおにし ごろう 大西 五郎	(男性)	90歳	愛媛県	ラグビーフットボール	活動歴：73年	顕彰対象区分(1)
<p>高校(旧制中学)からラグビーをはじめ、大学では主将、実業団でも主力選手として活躍する。平成12年全国ねんりんピック大阪大会で最高齢賞受賞、平成17年全国ねんりんピック福岡大会でも高齢者賞を受賞する。平成14年には世界大会ゴールドオールディーズラグビーフェスティバルにも選手兼監督として出場するなど、現役ラグーマンとして年間12試合余りに出場している。</p>							
4	おかた やすお 岡田 保雄	(男性)	83歳	和歌山県	剣道	活動歴：70年	顕彰対象区分(1)
<p>13歳から剣道をはじめ、長年にわたり和歌山県を代表する選手として活躍し、国民体育大会18回、全日本選手権大会5回、全日本東西対抗11回、全日本都道府県対抗13回に出場する。昭和51年(51歳)に8段、昭和61年(61歳)に範士の称号を得、明治村剣道大会8段戦に11回出場し、3位になるなど優秀な成績を収めている。和歌山県武道練成大会には平成13年まで毎年出場、平成17年の全日本演武大会にも出場している。</p>							
5	こばやし ごろう 小林 五郎	(男性)	92歳	山口県	水泳	活動歴：80年	顕彰対象区分(2)
<p>小学生の時に海や湖で覚えた水泳に取り組み、平成10年から数々の世界記録を樹立している。平成19年11月現在、85～89歳の部50m・100m・200m背泳ぎ、90～94歳の部100m・200m背泳ぎ(以上短水路)、85～89歳の部100m自由形、50m・100m・200m背泳ぎ、90～94歳の部100m自由形、50m・100m・200m背泳ぎ(以上長水路)の個人13種目のマスターズワールドレコードホルダーである。</p>							
6	とみなり ふさこ 富成 房子	(女性)	90歳	大分県	水泳	活動歴：80年	顕彰対象区分(2)
<p>10歳から水泳をはじめ、昭和10年に古式泳法の師範免許状を女性第1号で取得する。昭和48年からマスターズ競泳競技会に参加し、昭和59年の福岡県マスターズ大会で優勝を果たす。平成11年には世界マスターズ水泳選手権ハワイ大会に出場し、80～84歳の部50m平泳ぎ・背泳ぎで2冠を達成する。平成16年には85～89歳の部50m平泳ぎ、平成19年90～94歳の部50m平泳ぎでも世界新記録を樹立し、日本新記録はこれまで30回以上樹立している。</p>							
7	おがた ひとし 緒方 仁司	(男性)	82歳	熊本県	剣道	活動歴：73年	顕彰対象区分(3)
<p>小学生より剣道をはじめ、九州代表として全国郵政大会に出場し、団体優勝4回果たすなどの活躍をみせるとともに、全日本剣道演武大会には昭和57年より毎年出場している。剣道実技で最も難関とされる8段試験に25年間にわたり30回挑戦し、平成19年5月京都で行われた8段審査会において、合格率1.2%の超難関の審査に80歳にして見事合格し、全国初の偉業を達成した。</p>							

注) 年齢：平成20年9月27日現在